血を買う会社の、もうけぶり

1. バンクとは

バンクとは何か、なんて聞きなおることもない。バンクといえば銀行のことだぐらい当節は小学生でも知っている。

My Bank My KINKI なんて宣伝してる銀行もあるくらいだ。

それがしかし、われらの釜ケ崎では大いにちがってきて、銀行のことはバンクといわない。銀行は「あいりん」なのだ。

この「あいりん」という名前、役所と当者とマスコミがでっちあげたもので、作った連中以外は誰も使わない。キライだという。

釜ケ崎では、こちらとドヤ、食堂、立ちのみ屋、一般商店あたりとは大てい意見が対立するものなのに、「あいりん」という名前をきらうことではフシギと同じだ。そして例外はただ一つ、「あいりん銀行」だけがスンナリと定着した。でもこれはよけいな話。

こちらがバンクと呼ぶのは、もういわなくてもわかってる血液銀行、以前は「日本ブラッドバンク」の名前で、いまは「ミドリ十字」という会社、これが釜ケ崎の、こちらがバンクだ。

2. 血の商人

普通の銀行はカネを預けて利息をふやしたり、また必要によって金を借りたりするところ（ドッチも関係ないけどサ）。

こが、こちらの「バンク」は別だ。血を売りに行って、一時たしのぐカネを手に入れるところだ。つまり血を商品 原材料 として買うのがわれらのバンクということ。

この買われ方がどんなに安いかは別の記事で出るからここではいわない。

血の商人、ミドリ十字こと「バンク」とはどんな会社なのか、それを少し紹介しようというのがこの記事の目的なのだ。

3. KKミドリ十字

大阪法務局で入手した会社の登記では、ミドリ十字こと「バンク」の商売は次のようになっている。ややこしいけど読んでもらいたい。

商号 株式会社ミドリ十字

目的 1. 次の種目の製造、販売ならびに輸出入

(イ) 人血漿、人免疫グロブリン、人血清アルブミン、その他の血漿製剤ならびに代用輸液

(ロ)(ハ)および2は省略する〉

要するにだ、こちらが「バンク」へ行って、太い針で吸いあげられた血がこういうものになり、それが医者、病院へ売られる。医者は病人の治療に買ったもの、はやくいえばクスリを使う。

こちらが「バンク」へ行くのはシケテルときだから、安いのは不満でも仕方がねェやと血を売るけど、こんなふうにみてくれれば、安い血はずいぶん人助けの役に立ってるってことになる。ただし、安いというのはこちらが「バンク」へ売る血の値段だけで、それを材料に製造されたモノ＝クスリを「バンク」が安く売ってるのではない。逆なのだ。

4. ヒトのいやがる商売

人間が働くってことは、つきつめていえば命を売ること、体を売ることとなる。血を売るというふうにぜっていえなくはない。

けれども、働くってのはカラダ 手足なり頭なり を動かして仕事をすることで、直接に「命売ります」とか指一本腕一本でいくらというのとはちがう。それと同じで、働くってことが血を売ることとしても、目に見える赤い血を一合いくら一升いくらで売る

ってことじゃない。第一そんな商売はヒトがいやがる。売りたいとは思っても、よし買おう、買ってヒトモウケしようと思うニンゲンはなかなかいない。赤穂とか女郎屋とかいわれた、女のカラダを安く買って高く売る商売が、もうかるとわかっていてもキラワレタように。

そんなわけで、血を買って売る商売はやり手が少ない。日本ではほとんどこの「バンク」だけといっていいくらいだ。そこのところを、当りさわりなく（というよりトテモヨサソウニ）書いた見本がある。紹介しよう。

5. 特異な分野の会社

血液、体液用剤など医薬品業界でも特異な分野に実力を発揮しているのが同社である。／ごと血液製剤分野では血しょう（漿）剤プラスマネート、血栓溶解剤ウロキナーゼ、免疫抗体製剤ウロスリンなどユニークな商品を持っている。

紹介した文章に付けた・・のところを読みかえしてもらいたい。血の商人としての「バンク」が、どんなに強力かわかるはずだ。

この文章は『投資手帖』という、株をやるヒトのための雑誌の十一月号にあって、予想を見ると、「バンク」の株の値段は来年五月にはぐっと高くなるだろうとしてある。

株の値段については本誌七号（六月号）に書いたとき五二〇円だった。それから一時安くなったのが、十一月十一日　今日　の大阪北浜の相場では盛り返して五二二円だ。そして『株式手帖』では、あたらしいクスリを売り出したもうけがハッキリしてくると、株はもっと上がると見て「目標値　六五〇円」となっている。もともとは五〇円の株が十三倍もの値になるだろうというこの予想が、実にはっきりと「バンク」の景気のよさを証明しているではないか。その景気のよさの、全部とはいわないけれど、大きな部分がこちとら

のシノギの血だってことは考えさせられるネ、まったく。

6. もうけの話

さて、ということでこの「バンク」のもうけはどのくらいか、参考までに、同じく『投資手帖』の文章を借りてお知らせしとく。

オドロクナカレ、こうなっているのだ。

下半期については医家向け薬業の独自要品からみても好調を持続するのは確実で通期の売上げは一七七億円、経常利益二一億円、税引利益八億七〇〇〇万円と前年比で一七％の増収……

ここいらの書いてること、株を聞きかじりさもしてないとわかりませんが、とにかく損をしてないことはタシカ。血というのはもうかるもの（商品）なんですな。

7. せめては高く……

だからというか何というか、文句はいろいろあるけれど、とりあえずの問題としていえるのは、こんなにモウカッテル会社が、なんで原材料の血ィを安く安く買うかってェことだ。

そりゃあ、お互にシノギはつらい。安くてもなんでも血を売りたいと思う。

だけど、せめてもうちょっと、高く売れたら助かるのやないか。こんなふうな話をしてると、革命的思想的観点が不足してるとかでコワーイお兄さんの文句もある。でも、実際モンダイとしてどうなんだろう。

「バンク」は、山谷では別名が「ニッポリ・日暮里」で、歩いて三〇分ぐらいのところにあって、こちとらの兄弟の血を安く買ってることに変りはない。

一度でもいい、いや、毎度、ずっとならないおいい、血を売る方のストライキで「バンク」が不景気になり、株がぐっと安くなるまで、一戦交えてみたいね。トコトンまで――。

（了）